

報告
**看護学生の基礎看護技術への関心と必要性及び身につけたい度合いと
自己学習への取り組みとの関係**

野村晴香¹⁾ 岡田久子¹⁾ 平瀬節子²⁾ 池内和代¹⁾ 坂本雅代¹⁾
高知大学教育研究部医療学系看護学部門¹⁾ 高知県立安芸病院²⁾

Relationships of interest in, awareness of the necessity for, and desire
for mastery of basic nursing techniques with the attitude
of nursing students toward self-learning

Haruka Nomura¹⁾ Hisako Okada¹⁾ Setsuko Hirase²⁾ Kazuyo Ikeuchi¹⁾ Masayo Sakamoto¹⁾
Kochi University Research and Education Faculty Medicine Unit, Nursing Sciences Cluster¹⁾
Kochi Prefectural Aki Hospital²⁾

要 旨

本研究の目的は、基礎看護技術（6技術項目）への関心の度合い、必要性の度合い、身につけたい度合いの違いと自己学習への取り組みの内容を比較し、その特徴を明らかにして、今後の教育への示唆を得ることである。対象は、生活援助技術の授業を受けた看護学生で、方法は無記名アンケート調査である。その結果、関心の度合いは、関心の高い群と低い群で比較すると、経管栄養・導尿・輸液準備に自己学習の取り組み内容に有意差が見られた。必要性の度合いは、必要性の高い群と低い群で比較すると、清拭以外の基礎看護技術項目に有意差が見られ、身につけたい度合いは、自立群と要指導群で比較すると、清拭・陰部洗浄・経管栄養・輸液準備に有意差がみられた。以上から、学生は、基礎看護技術への関心および必要性や身につけたい度合いが高いほど自己学習に取り組んでいたが、関心および必要性や身につけたい度合いが低いほど、自己学習に取り組んでいなかった。今後、自己学習への取り組みの低い学生には、自己学習が看護実践の基礎となる知識の習得や、技術練習が看護技術の定着に重要であることを、意識化し実践できるように指導することが重要である。

キーワード：基礎看護技術、関心・必要性・身につけたい度合い、自己学習

Abstract

The objective of this study was to compare the levels of interest in, awareness of the necessity for, and desire for mastery of basic nursing techniques (6 items) with the attitude of nursing students to self-learning, clarify their characteristics, and obtain suggestions for future nursing education. An anonymous questionnaire survey was carried out in nursing students who took a class of life support techniques. Significant differences were obtained in the con-

受付日：2011年7月1日 受理日：2011年10月17日

tents of self-learning regarding tube feeding, urethral catheterization, and preparation of transfusion solutions between those at a high interest level and those at a low interest level. Significant differences were observed in all basic nursing techniques other than bed bathing between those who perceived basic nursing techniques to be highly necessary and lower necessary. According to the desire level to master basic nursing techniques, significant differences were observed regarding bed bathing, washing of the private parts, tube feeding, and preparation of transfusion solutions between independent group and group in need of advice. The more the students were interested in basic nursing skills, and high their need or motivation to master them, the more enthusiastically they dedicated themselves to self-learning. Self-learning establishes a basis for providing nursing care, and technical training is essential for students to master nursing skills. It is important to advise students who express little interest in self-learning to help them recognize and implement these points through the acquisition of expertise.

Keywords: basic nursing skills, Levels of interest, awareness of the necessity, desire for mastery, self-study

【緒 言】

看護基礎教育に携わる者は、学生の学習への興味や関心および問題意識を高めることや、技術習得に向けた段階的な学習への支援に取り組むことが必要である。

そこで、基礎看護技術を教授するにあたり教員は、学生に演習前後に学習資料を提示し、自己学習を促している。その自己学習効果について、2009年「基礎看護技術の習得に向けた自己学習への取り組みの実態¹⁾」として報告し、学生の演習前と演習後の学習への取り組みの違いを明らかにした。

その報告の中での課題の1つは、同じ学習を学生に課しているにも関わらず、自己学習に積極的に取り組む学生と、余り取り組まない学生がいることであった。

今回、自己学習への取り組みの違いには、学生の学習への取り組み姿勢が影響すると考えた。基礎看護技術への関心の度合いや必要性の度合い、身につけたい度合いに着目し、その関係を検討したので報告する。

【研究方法】

1. 対象者：A大学看護学科学生で生活援助技術論Ⅰ・Ⅱを受講した、2008年度1年生(58名)と2年生(63名)、2009年度1年生(61名)、2010年度1年生(65名)の計247名である。なお、2008年度は、カリキュラム改正に伴い、生活援助技術が1年生へ移行したことから、1年生と2年生を対象とした。

2. データ収集方法：

1) 調査方法：無記名アンケート調査であり、実施方法は、Ⅰ期Ⅱ期の学期末に一斉に行った。

2) 調査内容：

(1) 基礎看護技術(ベッドメイキング・清拭・陰部洗浄・経管栄養・導尿・輸液準備)6項目に対して①技術への関心、②技術への必要性、③身につけたい度合いである。なお、回答は①技術への関心の度合いは、関心が高いを「関心が高い群」とし、ある程度関心がある・あまり関心がない・全く関心がないを「関心が低い

群」とした。②必要性の度合いは、とても必要であるを「必要性の高い群」とし、ある程度必要である・あまり必要でない・全く必要でないを「必要性の低い群」とした。③身につけたい度合いは、病院実習で一人のできるようしておきたいを「自立群」とし、病院実習では指導のもとでできるようにしておきたい・特に病院実習までに習得したい技術ではないを「要指導群」とした。

(2) 自己学習の取り組み内容に対して、回答は、①事前に配布資料を読んだ、②事前に内容を整理した、③事前に技術練習をした、④事後に講義内容を整理した、⑤事後に技術練習をしたである。なお、回答は「事前に配布資料を読んだ」：全体を読んだ〈1点〉・半分程度読んだ〈2点〉・読まなかった〈3点〉、「事前に内容を整理した」：全体的に整理した〈1点〉・部分的に整理した〈2点〉・全く整理しなかった3点〉、「事前に技術練習をした」：一連の課程を練習した〈1点〉・部分的に練習した〈2点〉・練習しなかった3点〉、「事後に講義内容を整理した」：全体的に整理した〈1点〉・部分的に整理した〈2点〉・全く整理しなかった3点〉、「事後に技術練習をした」：一連の課程を練習した〈1点〉・部分的に練習した〈2点〉・練習しなかった〈3点〉であり、点数が低いほど、積極的に自己学習に取り組んでいるとした。

3) 回収方法：無記名で個人封印後、設置した回収ボックスに、対象者の意思で配布後14日までに投函してもらった。

4. データ収集期間：2008年12月～2011年2月

5. データ分析方法：データの分析には、統計ソフト SPSS15.0を使用した。検定方法は、関心の度合い、必要性の度合い、およ

び身につけたい度合いのそれぞれにおける2群間について、自己学習の取り組み内容の違いの有無を、Mann-WhitneyのU検定で有意水準 α を0.05として調べた。

【倫理的配慮】

研究の参加は自由意思であり、参加を拒否しても学業成績など何らかの不利益を被らないこと、データ収集は、無記名で封筒に入れ封印後、回収箱に入れるなど個人が特定できないように配慮することなど、口頭と文書をもとに説明を行った。研究への同意は、アンケートの提出をもって得た。なお、本研究は、高知大学医学部倫理委員会の承認を得て実施した。

【結 果】

アンケートの回答数は、2008年度、前期後期とも2年生45名(71.4%)、1年生25名(43.1%)、2009年度、前期49名(80.3%)、後期55名(90.1%)、2010年度、前期後期とも47名(72.3%)であった。

1. 基礎看護技術への関心の度合いと、自己学習の取り組みの比較

関心の度合い2群間における自己学習の取り組み内容について有意差が見られなかった基礎看護技術項目は、ベッドメイキング・清拭・陰部洗浄であった。有意差が見られた基礎看護技術項目は、経管栄養の「事後に技術練習をした」($p < 0.01$)、導尿の「事前に配布資料を読んだ」($p < 0.05$)、輸液準備の「事前に配布資料を読んだ」($p < 0.01$)「事前に内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に講義内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に技術練習をした」($p < 0.05$)の、基礎看護技術3項目と、自己学習の取り組み内容4項目であった。(表1)

表 1 看護技術項目への関心の度合いの違いと自己学習取り組みの比較

技術項目	自己学習の取り組み内容 関心の度合い	事前に配布資料を読んだ			事前に内容を整理した			事前に技術練習をした			事後に講義内容を整理した			事後に技術練習をした		
		関心の高い群	関心の低い群	合計	関心の高い群	関心の低い群	合計	関心の高い群	関心の低い群	合計	関心の高い群	関心の低い群	合計	関心の高い群	関心の低い群	合計
メイキング	N	65	101	166	65	100	165	65	99	164	65	100	165	65	101	166
	平均値	1.5	1.5		1.8	1.9		2.0	2.0		1.6	1.8		1.2	1.4	
	Mann-Whitney の U	3207.5			3045			3139.5			2955			3057.5		
	有意確率 (両側)	0.795			0.466			0.782			0.297			0.274		
清拭	N	60	106	166	59	106	165	60	105	165	60	105	165	59	106	165
	平均値	1.4	1.5		1.7	1.9		2.2	2.1		1.7	1.8		1.4	1.6	
	Mann-Whitney の U	2928			2759.5			2948			2929			2801		
	有意確率 (両側)	0.341			0.172			0.448			0.417			0.197		
陰部洗淨	N	57	109	166	56	109	165	56	109	165	57	108	165	57	109	166
	平均値	1.3	1.5		1.8	1.8		2.2	2.0		1.7	1.7		1.3	1.4	
	Mann-Whitney の U	2818.5			2978			2730			2962.5			2868.5		
	有意確率 (両側)	0.244			0.800			0.217			0.674			0.320		
経管栄養	N	65	107	172	64	107	171	64	107	171	65	106	171	65	107	172
	平均値	1.3	1.4		1.7	1.8		2.1	2.2		1.8	1.8		1.3	1.7	
	Mann-Whitney の U	3072.5			3193			3369.5			3244			2691		
	有意確率 (両側)	0.128			0.421			0.867			0.487			0.003*		
導尿	N	65	107	172	64	107	171	64	107	171	65	106	171	65	107	172
	平均値	1.2	1.5		1.7	1.7		2.1	2.1		1.7	1.7		1.3	1.4	
	Mann-Whitney の U	2861			3324			3402			3351			3314.5		
	有意確率 (両側)	0.019*			0.730			0.956			0.755			0.500		
輸液準備	N	94	78	172	93	78	171	94	76	170	94	77	171	94	78	172
	平均値	1.3	1.5		1.7	1.9		2.1	2.3		1.8	1.9		1.5	1.9	
	Mann-Whitney の U	2930.5			2841			3190			3029.5			2766.5		
	有意確率 (両側)	0.007**			0.006**			0.174			0.041*			0.002**		

* : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$

2. 基礎看護技術への必要性の度合いと、自己学習の取り組みの比較

必要性の度合い 2 群間における自己学習の取り組み内容について有意差が見られなかった基礎看護技術項目は、清拭であった。有意差が見られた基礎看護技術項目は、ベッドメイキングの「事後に講義内容を整理した」($p < 0.05$)「事後に技術練習をした」($p < 0.01$)、陰部洗淨の「事後に講義内容を整理した」($p < 0.05$)、経管栄養の「事前に内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に講義内容を整理した」(p

< 0.01)「事後に技術練習をした」($p < 0.05$)、導尿の「事前に内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に講義内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に技術練習をした」($p < 0.05$)、輸液準備の「事前に配布資料を読んだ」($p < 0.05$)「事前に講義内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に講義内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に技術練習をした」($p < 0.01$)の、基礎看護技術 5 項目と、自己学習の取り組み内容 4 項目であった。(表 2)

表 2 看護技術項目への必要性の度合いと自己学習取り組みの比較

技術項目	自己学習の取り組み内容 必要性の度合い	事前に配布資料を読んだ			事前に内容を整理した			事前に技術練習をした			事後に講義内容を整理した			事後に技術練習をした		
		必要性の高い群	必要性の低い群	合計	必要性の高い群	必要性の低い群	合計	必要性の高い群	必要性の低い群	合計	必要性の高い群	必要性の低い群	合計	必要性の高い群	必要性の低い群	合計
メイキング	N	101	65	166	100	65	165	99	65	164	101	64	165	101	65	166
	平均値	1.5	1.6		1.8	1.9		2.1	1.9		1.6	1.8		1.2	1.5	
	Mann-Whitney の U	3137.5			2946.5			2994			2673			2660.5		
	有意確率 (両側)	0.615			0.270			0.378			0.041*			0.003**		
清拭	N	131	35	166	130	35	165	130	35	165	131	34	165	130	35	165
	平均値	1.5	1.5		1.8	1.9		2.1	2.1		1.7	1.9		1.5	1.6	
	Mann-Whitney の U	2196.5			2057.5			2254			1939			2079		
	有意確率 (両側)	0.711			0.345			0.941			0.215			0.381		
陰部洗淨	N	127	39	166	126	39	165	126	39	165	127	38	165	127	39	166
	平均値	1.4	1.5		1.7	1.9		2.0	2.0		1.6	1.9		1.4	1.5	
	Mann-Whitney の U	2183.5			2179.5			2445			1901			2175		
	有意確率 (両側)	0.190			0.246			0.946			0.028*			0.159		
経管栄養	N	123	49	172	122	49	171	122	49	171	123	48	171	123	49	172
	平均値	1.3	1.5		1.7	2.1		2.1	2.4		1.7	2.0		1.4	1.8	
	Mann-Whitney の U	2608.5			2905			2521			2155.5			2418		
	有意確率 (両側)	0.102			0.000**			0.066			0.002**			0.017*		
導尿	N	125	47	172	124	47	171	124	47	171	125	46	171	125	47	172
	平均値	1.3	1.6		1.6	1.9		2.0	2.3		1.6	2.0		1.3	1.5	
	Mann-Whitney の U	2548			2194			2548			2175			2489.5		
	有意確率 (両側)	0.106			0.005**			0.162			0.007**			0.036*		
輸液準備	N	133	39	172	132	39	171	132	38	170	133	38	171	133	39	172
	平均値	1.3	1.6		1.7	2.1		2.2	2.4		1.8	2.2		1.6	2.1	
	Mann-Whitney の U	2031			1779			2118			1717			1878.5		
	有意確率 (両側)	0.012*			0.001**			0.097			0.001**			0.003**		

* : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$

3 基礎看護技術への身につけたい度合いと、自己学習の取り組みの比較

身につけたい度合い 2 群間における自己学習の取り組み内容について有意差が見られなかった基礎看護技術項目は、ベッドメイキングと導尿であった。有意差が見られた基礎看護技術項目は、清拭の「事前に内容を整理した」($p < 0.01$)「事前に技術練習をした」($p < 0.05$)「事後に講義内容を整理した」($p < 0.01$)「事後に技術練習をした」($p < 0.01$)、陰部洗浄の「事後に講義内容を整理した」($p < 0.05$)、経管栄養の「事前に技術練習をした」($p < 0.01$)「事後に技術練習をした」($p < 0.01$)、輸液準備の「事前に技術練習をした」($p < 0.01$)の、基礎看護技術 4 項目と、自己学習の取り組み内容 5 項目であった。(表 3)

【考 察】

技術の修得過程には「知る段階」「身につける段階」「使う段階」があり、「知る段階」では看護技術の目的を意識しながらその根拠をつかむこと、また、「身につける段階」では、ポイントを正確にくり返すことの重要性²⁾が言われている。今回、学生は、自己学習にお

いて技術習得に必要な知識を得るための事前事後の学習や、技術を身につけるための技術練習に、基礎看護技術の項目により取り組みに違いがあることが明らかになった。

基礎看護技術への関心の度合いの比較では、ベッドメイキングや清拭、陰部洗浄の項目で差がみられなかった。これらは、日常生活を整える援助技術項目であり、環境を整え清潔を保つなど身近に関心を向けやすい技術によると考える。看護技術への関心の度合いで差が見られた経管栄養や導尿、輸液準備では、健康回復に必要な治療援助技術の項目であり、その中でも輸液準備は事前事後に知識を整理し技術練習をするなど、その取り組みに差が見られ、その差は、看護技術一連の流れの複雑さが関心の度合いと自己学習に影響していると考えられる。

基礎看護技術への必要性の度合いの比較では、清拭の技術を除く 5 技術項目に何らかの差が見られ、中でも事後の内容整理は清拭を除く 5 技術項目に、事後の技術練習では、清拭や陰部洗浄を除いて 4 技術項目に組みの差がみられた。事前の自己学習に比べ演習後の自己学習に差が見られたことは、演習によりこれらの基礎看護技術項目が実践におい

表 3 看護技術項目への講義後までに身につけたい度合いと自己学習取り組みの比較

技術項目	自己学習の取り組み内容項目	事前に配付資料を読んだ			事前に内容を整理した			事前に技術練習をした			事後に講義内容を整理した			事後に技術練習をした		
		自立群	要指導群	合計	自立群	要指導群	合計	自立群	要指導群	合計	自立群	要指導群	合計	自立群	要指導群	合計
メイキング	N	152	14	166	151	14	165	151	13	164	151	14	165	152	14	166
	平均値	1.5	1.6		1.8	1.9		2.0	2.4		1.7	1.8		1.3	1.5	
	Mann-Whitney の U		1054			966			777.5			977.5			888.5	
	有意確率 (両側)		0.915			0.601			0.195			0.650			0.143	
清拭	N	121	45	166	120	45	165	121	44	165	120	45	165	120	45	165
	平均値	1.4	1.6		1.7	2.1		2.0	2.3		1.7	2.0		1.4	1.8	
	Mann-Whitney の U		2248.5			1727			2175			2033.5			1926	
	有意確率 (両側)		0.052			0.000*			0.047*			0.007**			0.001*	
陰部洗浄	N	109	57	166	108	57	165	109	56	165	108	57	165	109	57	166
	平均値	1.4	1.5		1.7	1.9		2.0	2.2		1.6	1.9		1.4	1.4	
	Mann-Whitney の U		2721.5			2634			2688			2510.5			2900.5	
	有意確率 (両側)		0.132			0.091			0.165			0.033*			0.382	
経管栄養	N	95	77	172	94	77	171	95	76	171	94	77	171	95	77	172
	平均値	1.4	1.4		1.8	1.8		2.0	2.4		1.8	1.8		1.3	1.8	
	Mann-Whitney の U		3630.5			3406			2806			3467.5			2828.5	
	有意確率 (両側)		0.959			0.471			0.005**			0.604			0.002**	
導尿	N	96	76	172	95	76	171	96	75	171	95	76	171	96	76	172
	平均値	1.4	1.4		1.7	1.7		2.0	2.2		1.7	1.7		1.3	1.4	
	Mann-Whitney の U		3580			3519			3276			3556			3378	
	有意確率 (両側)		0.817			0.751			0.254			0.860			0.254	
輸液準備	N	97	75	172	96	75	171	96	74	170	96	75	171	97	75	172
	平均値	1.4	1.4		1.8	1.8		2.1	2.4		1.8	1.9		1.6	1.8	
	Mann-Whitney の U		3453			3535			2825.5			3280.5			3309.5	
	有意確率 (両側)		0.508			0.840			0.009**			0.283			0.250	

* : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$

てなくてはならない必要なものとして、必要性の低い学生には意識化されていない状況にあると考える。

基礎看護技術への身につけたい度合いの比較では、清拭の技術に取り組みに差がみられた。清拭は、患者の身体を清潔に整えるのみでなく人間関係を形成する効果もあって、患者のみならず看護者にとっても快の刺激への反応が体感できる項目であり、実習では実施する機会が多いにも関わらず、身につけたさが自己学習に影響していると考えられる。

以上より、学生は、関心や必要性や身につけたい度合いが高いほど、自己学習に取り組み、度合いが低い学生ほど、自己学習に取り組んでいない傾向が見られた。この傾向の違いには、演習前後の基礎看護技術への関心の度合いや必要性の度合い、身につけたい度合いと自己学習への取り組み内容が関係すると考えるが、今回はその視点での調査をしていなかった為、演習が自己学習にどの程度影響し、変化したのか明らかにすることができなかつたことが挙げられ、本研究の限界と言える。

今後の課題として、看護技術への関心や必要性や身につけたい度合いが低い学生には、自己学習による事前事後の学習が看護実践の基礎となる知識蓄積に繋がることや、繰り返しの技術練習が看護技術の定着に重要であることを、意識化し実践できるように指導することが重要であると考えられる。

【結 論】

1. 自己学習の取り組み内容に有意差が見られたのは、①関心の度合いでは、経管栄養・導尿・輸液準備、②必要性の度合いでは、ベッドメイキング・陰部洗浄・経管栄養・導尿・輸液準備、③身につけたい度合いでは、清拭・陰部洗浄・経管栄養・輸液準備であった。
2. 学生の基礎看護技術への関心や必要性や身につけたい度合いが高いほど、自己学習に取り組んでおり、度合いが低い学生ほど取り組んでいなかった。
3. 今後の教育への示唆として、看護技術への関心や必要性や身につけたい度合いが低い学生には、自己学習が看護実践の基礎となる知識習得や、技術練習が看護技術の定着に重要であることを、再度意識化し実践できるよう指導することの必要性が明らかになった。

【謝 辞】

本研究の実施にあたり、ご協力頂きました学生の皆様に感謝申し上げます。

【引用文献】

- 1) 野村晴香・平瀬節子・坂本雅代他：基礎看護技術習得に向けた自己学習への取り組みの実態 .高知大学看護学会誌 .3 巻 1 号 .45-49 .2009 .
- 2) 薄井坦子・小玉香津子・三瓶眞貴子他：基礎看護技術 .13-15 .医学書院 .2003 .